

## 第5回県立大学あり方懇談会議事概要

平成15年10月20日開催  
メルパルク岡山

### 1 出席者(委員11名、五十音順、敬称略)

会長 鳥越良光、副会長 小嶋光信、池田武彦、大西珠枝、奥津竹彦、金重美恵子、  
小池将文、小橋政彦、高谷茂男、武田結幸、西脇宣子

### 2 「県立大学のあり方(運営面)」質疑及び意見

#### [事務局]

資料により説明。

#### 《委員》(質問)

- ・①独立行政法人化について説明があったが、中国近県の公立大学の動きはどのようなのか。
- ・②また、県内にある県立の施設で、県大以外についても独立行政法人化をしようとしている施設はあるのか。

#### [事務局]

##### [①について]

- ・広島県は、県内にある3大学の統合を一生懸命やっていて、独立行政法人化についてはまだ検討段階であり、島根県は、内部での検討中。山口県も岡山のように「懇談会」を立ち上げ検討中である。

##### [②について]

- ・国の施設では、国会図書館や国立博物館などは独立行政法人化をしている。県立施設では、行革の審議会が企業局や県立病院などが独立行政法人化すべきという答申が出されている。

#### 《委員》(意見)

- ・PLAN DO SEE の資料があるが、民間的に言うとこれに CHECK とアクションというのがある。基本的に今一番欠けているのは、この「チェック」とチェックした後に必ず改善することである。そのあたりを整理した方が機能分担がはっきりするのではないか。
- ・将来的には独立行政法人化に向かうのではないかと思うが、管理・運営については、将来に向かって一番厳しい方向でつくっていく必要がある。民間ファクターの取り入れ等をしていき、より強い大学を目指していかなくてはならない。
- ・特に必要なのは、非公務員とすることである。教員がいったん採用されたら、ずっとそのままいけるとするのはよくない。
- ・財政基盤の確保が今後の方向性で最も不安定・不確かなところではないか。政治と教育は財政基盤を独立させなくてはいけない、というのは、閑谷学校をつくったときの池田公たちの考えでもある。本来教育というのは、そういうものに左右されないで本当に国や地域に必要な人材づくりをしないとイケない。
- ・どこまで踏み込んでいくのかが一番大事。知事としての覚悟が大切。長期的に安定したものをつくるには、光熱水費を節約するというようなことだけではダメである。

- ・将来的には、他の私大や国立大学と一緒になるということもあり得るのではなかろうか。
- ・どんな状態になろうとも、自尊心をもって大学運営がしていけることが前提であって、それが確保できるよう今から一生懸命取り組むことが大切である。

#### 《委員》(意見質問)

- ・資料にある新聞記事にもあるように、岡山大学が中期目標の原案をつくったというのは、その中身についてはともかく、劇的なことである。
- ・県大も、ここで腹を決めるのか、それとも「どうしようかな」という段階なのか。今日は副知事も総務部長もおられるので、そのあたりの意見を話せる範囲でお聞かせいただきたい。その返答いかんで、委員としての腹のくくりようもでてくるので、是非踏み込んだ意見をお聞かせいただきたい。

#### [事務局]

- ・一番のポイントは財政基盤である。現在は地方交付税で標準的な経費は措置されているが、それが法人化後にどうなるかわからない時点で判断することは非常に難しい。
- ・腹を早くくくりたいが、そのための材料がないという状況である。また、国立大の今の動きの中で、そのあたりの状況を見させてもらうことも必要ではないかと考えている。

#### 《会長》(司会)

- ・また、委員の皆さんの意見も聞いておく必要があるのではないか。委員の御意見をお聞きしたい。

#### 《委員》(意見)

- ・そのうちに学生が6割もいない時代がやってくる。県大は地域への貢献を明確に示すべきである。
- ・目指すべきあり方と政策の方向とが一緒になって初めて、財源がどこから出すか、議論されるものであるので、方向性については、もう決めておくべきではないか。

#### 《委員》(質問)

- ・(資料について) 人事制度の問題点として「非公務員となることへの抵抗がある」というのは一体どこに抵抗があるのか。

#### [事務局]

- ・公立大学教職員全般には、「公務員としての安定した身分を守りたい」という意見が強い、と聞いた。国立大はそういった意見を何とか調整して法人化へもっていったと聞いている。

#### 《委員》(意見)

- ・人事権を持つ知事には細かい情報が届かない、情報を持っている学長には権限がない。社長のいない会社のようなものだ。
- ・安定した身分を守りたい、というのは公務員のわがままである。根本的にそこを変えないといけない。抵抗があるからこそやってほしい。
- ・経費削減のためにアウトソーシングというのがあるが、アウトソーシングは流行ではあるが、経費が高くつくアウトソーシングもあるので注意が必要。

《委員》(意見)

- ・民と官とではコスト意識が全然違うところにあると思う。

《委員》(意見)

- ・一度、年間の経費をすべて検証する必要がある。

《委員》(質問)

- ・県大の教授は労働組合員なのか。

[事務局]

- ・人事委員会の規則で管理職の範囲を定めており、学長と事務局長と次長以外の、一般の学長以下の先生方は組合に加入できている。数名が加入している

《委員》(意見)

- ・岡山大学が法人化するにあたって、岡山大学の教授陣が50名くらい組合に加入したと聞いた。大学の教授というのは労働組合員なのか。

《委員》(意見)

- ・地方公務員法に基づくものだから、一般論としては、職員団体は入れるがストはできない。だが、国立大ではかつて学生運動の激しいときに、職員団体に入って事実上の交渉を行ったという経緯はある。法人化すれば非公務員型だから、労働争議も可能となる。
- ・今までは労働基本権の制約があって、交渉はできるがストはできなかった。今度は労働基本権は回復するが保護がなくなるのでそれを見越して、組合に入る動きがあるのでは。
- ・高等教育機関の組織運営の問題点は、大学審議会でも議論されてきており、ここにきて国の行政改革の中で独立行政法人制度ができたが、大学は一般論ではそれに乗れなかった。大学の自治というのは、教員の教育研究に対する自主性を発揮してこそ、そのパフォーマンスがよくなるという考えがあり、これまでの大学運営の考え方を取り入れて、一般論としての独立行政法人とは別の国立大学法人というのができている。
- ・大学関係の法人はわからないことが多すぎて、制度はできてもすぐに乗れるかどうか疑問である。病院や試験研究機関については、ある程度動きがわかる。国立病院の例があるので、県立病院も動きやすい。
- ・総務省の方の財政的な裏付けもはっきりしていない。制度については慎重になった方がよいのではないか。
- ・ただし、コスト感覚、人事権、学長の権限強化など今の制度下でも取り入れられるものは取り入れて、地方独立行政法人の公立大学法人に移行すべく、必要なものを取り入れていけるものは取り入れてやっけて行くべきではないか。
- ・職員が3年で変わるというのは組織の永続性という点で問題があると思う。しかし、県大の事務局は組織としては非常に小さいので、これを固定化するのが果たして良いのかどうか。国立大学なら組織が大きいし、他の国立大や本省とも交流が可能である。
- ・キーとなる人を外部から入れて、事務職員の能力を上げるところからやってみてはどうか。いずれは独立行政法人となるとしても、それだけが目的ではなく、できるところから着手してはどうか。

《委員》(意見)

- ・県大には、レベルの低い現状の問題がある。独立行政法人化については、副知事の言わ

れるスピードでも良いが、現状の問題については早く解決を。

#### 《委員》(意見)

- ・独立行政法人化は公務員を減らすために出てきたような点がある。県大が独立行政法人化してやっていけるか、というと最低でも一つの学科に60名はいないと採算がとれない。県大は40名と小さい。
- ・国立大は地域貢献への取り組みを始めているし、私大は生き残りをかけて戦っている。公立大学は授業料で優位性があり、そこそこの生徒が集められるが、中途半端な立場である。いったい公立大学とはなんのために置かれているのか、県としてどんな人材を育てるのかを明確にしないといけない。
- ・工学系の学科は資金がかかるが県として必要な人材育成であれば税金を投入してもいいと思う。独立行政法人化しても独立採算とはならないだろう。
- ・人事も3年ローテーションはよくないが、組織が小さいので、独立行政法人化は慎重にしないといけない。国立大学との合併や民間委託なども視野に入れてみてはどうか。

#### 《委員》(意見)

- ・民と官を棲み分けて、削るものは削る、との指摘には、同意見である。独立行政法人化に向かうとしても、本質の面へ目を向けて欲しい。
- ・財政基盤についてであるが、国公立大は私大の半分に近い程度の授業料である。競争条件を整理して欲しい。受益者負担ということから考えると、今のような半額程度がよいのかどうか考えて欲しい。

### 3 「県立大学のあり方(教育面)」質疑及び意見

#### [事務局]

資料により説明。

#### 《会長》(司会)

- ・大学に入るとき、入ってから、そして卒業するときについての説明をいただいた。先般の県議会では、「入学のところで県内出身者をもっと増やしては」という意見が出されたと聞いている。皆さんの意見を伺いたい。

#### 《委員》(意見)

- ・(資料に)他の県立大学の状況についていろいろと書いてあるが、他の大学がこうだから、というのではなくユニークな定員・推薦入学を考えないといけない。他の何%がこうだから、というのではなく。

#### 《委員》(意見)

- ・かつては、全国から中国地方の大学に学生が集まっていた。しかし、だんだんと圏域が狭くなってきている。これはどの大学でもいえることではあるが。今はどこの大学も地元へ力を注いでいるので、いわゆる公立大だけ比較するのがいいのか、全大学の中で県立があり、どういう方向かというのは考えてみる必要があるのではないかと。

#### 《委員》(質問)

- ・300名という定員はどうやって決まったのか。

#### 《委員》

- ・それは最初の設置構想の際に、各学部をつくったときに、工学系であったら一学科50名とか各学部の人数構成を行い、それを積み上げたものと思われる。そして、あまり小規模であると認可されないが、大規模となると大変なので、ぎりぎりの最少限度の人数で300名に決まったものと思われる。

#### 《委員》(質問)

- ・岡山の県立高校の卒業生の人数は？

#### [事務局]

- ・約23,000名です。

#### 《委員》(意見)

- ・センター試験から開放することが優秀な生徒をつくることにつながる。2万人強の高校卒業生がいて、300人とは少なすぎる。私は地元生70%説である。県内生はすべて推薦としてみてはどうか。そのかわり TOEIC などの点数も評価に入れてみては。実践的な日常の学問をきっちりやる方が社会人として通用する。そして問題意識を持てる人がよい。ただし、30%は他県の人を入れること。
- ・海外留学も大事だが、国内留学も大切である。1年ぐらいは他県の大学と相互交流をさせてみてはどうか。思い切ったことをするのが大切である。300人の少数精鋭でやるなら思い切った人材を育てていく努力をした方がよいのではないか。
- ・また、一年間のインターンシップを認めてみてはどうか。就職にもつながる。雇用者側からすると、面接して短期間で採用者を決めるのは非常に大きなリスクがある。今は新規採用は有期の契約社員としてしか採用しない会社も多い。これは問題である。今の若者達は先が見えない、将来何になるのかが見えないと言うのが特に一番困ったことである。

#### 《委員》(意見)

- ・今、委員が言われたことは、今の制度下ですべてできることである。単位を取ってしまい4年次はゼミだけという学生も多いので、インターンシップで1年間企業に預けてそれをゼミに替えてみては。また、他大学への単位互換についても、法令上60単位までは認められている。
- ・全国一律のセンター試験で入学選抜を行っておいて、個性的な生徒をつくるのは無理である。個性的な入学選抜の実施を。「教育の質の内容、向上」の資料を見たらほとんどの項目が検討中とあるが、これは担当者の怠慢である。

#### 《委員》(意見)

- ・今や大学は誰でも入れる状況下にある。行きたい大学にしないと学生が来てくれない。自己推薦で不合格となったのが学校推薦や一般入試で再受験しているような場合も見受けられる。
- ・帰国子女は岡山近辺では数が少ないし、社会人入学については、仕事を辞めて4年間かけて勉強してスキルアップしてもそれが再就職のステップアップにつながらない状況となっている。
- ・学力でも人格面でも手とり足とり教えないと社会に適応できる若者がつくれない。

- ・FDが重要だといわれていて、いかにして学生に伝わる、実践力となる教育をするか、が課題である。いろんな公立大学が看護とか就職に直結する教育を行っているが、民間でもやっている分野である。結局地方の大学で卒業しても就職先がないと学生に来てもらえないというのがあるのだろう。

#### 《委員》(意見)

- ・県大ができたときには、ニーズがあったのでしょうか、夢づくりプランにもいろいろなことが書いてあるからこれを達成するために卒業生が活躍するのか、と思ったら、そのようには結びついていない。学生も意識が低い。教員も教える視野はあっても、地域ニーズを汲み上げようとか地域と交流しようとかいう意識が低い。
- ・自分は仕事柄、思春期や高齢者の問題を考えているのだが、今ちょうど実習に学生がやってくるが、学生4人に先生が2人ついてくる。ずいぶんと贅沢だと思う。助産師の資格にしても、四年制大学を出たのと看護師から1年で資格を取る人とどう違うのか。
- ・実習に来ている学生の話では、出前講座で高校に行って高校生と交流できて楽しかった、と言っていた。地域にこうして入っていくことは大切ではないか。この大学に行ったら、地域にこんな良いことがあった、といえるような。
- ・県大卒業生の就職先での評価について、アンケートを行って知りたい。

#### 《会長》(司会)

- ・県大の使命を教員も生徒も共有していないといけない、卒業後の効果、そしてその点での費用対効果についての御意見だったと思う。

#### 《委員》(意見)

- ・60万人がセンター試験を受ける。センター試験には良いところもあるが罪な部分も大きいと思う。いかにして問題意識を持つのか、という点が育ちにくい。個人の個性を重視するにはセンター試験では難しい。しかし、私大もセンター試験を採用するようになってきて、推薦入試についても時期が早いので、いろんな意味で各高校ともセンター試験を受けるように指導しているのが実態である。
- ・推薦入試が実態として難しくなっているのではないか。今の高校1年生から絶対評価に変わってきている。これが推薦入試に使えるのか。
- ・今は少子化のため、親の関わり方が変わってきて、わずかなすれ違いでも大きな問題とされる。大きな木が育ちにくい。大学でも補習をしないとついていけないので補習をする。その講師は高校や塾の先生であると聞く。どこか間違っているのではなかろうか。

#### 《委員》(意見)

- ・推薦といっても推薦入試という名に借りて、実際は試験を多くの学校で行っている。これは学校間の格差があるからどうしようもない。推薦の形も学校ごとに違う。県大もセンター試験をしないで个性的な入試を試してみても。工夫は必要だが。

#### 《委員》(意見)

- ・私は7年間、私大と県立高校とに行っている。学力の低下は目に見えて著しい。学科の中身をどう構成するかは最大の問題である。
- ・大胆にユニークな教育をしては。外国は民間企業からお金をとって社会人の教育をしている。
- ・今は中国やロシアからも多くの学生を獲得してきている。人材をつくるという点に絞って

けば、グローバル化していく。

- ・地域や人々、企業にどう還元していくのか、学生数は減り、質も下がってきている。本当の人づくりが求められている。

#### 《委員》(意見)

- ・単に複数形式の入試というだけではなく、学部ごとまたは教員同士が共通理解をもってアドミッションポリシーをつくと改善方法も見えてくる。
- ・教育内容については「検討中」が多い。単位互換の相手が同じ敷地内にある短期大学部だけというのはどうなのか。地域性の制約を言っていたが、岡山に住む学生も多いはず。岡山大学は多くの学部をもっているのだから…。
- ・就職についてはそれなりに検討しているようだが、インターンシップは1年は長いとしても、検討が必要である。県大なのだから、日頃の産学官の連携を利用して、取り組みをしてもらいたい。

#### 《委員》(意見)

- ・インターンシップも同友会の協力を得て、また単位互換も数年前から私大では既に行われている。

#### 《委員》(意見)

- ・企業側が求めるのは、基礎的な常識を備えた人物であり、今は低次元でそこができていない。すぐに岡山の企業に役立つ人材をつくってほしい。これから日本も観光に力を入れていくのだから、それに貢献できる学部であれば、就職難は生じないだろう。

#### 《会長》(意見)

- ・雇用と教育現場のミスマッチがあり、学問が生かせていない。資源の浪費という部分があるので、学部の見直しを、という御意見であったと思う。

#### 《委員》(意見)

- ・(資料に基づき)「人格形成に効果のある科目の検討」と書いてある。ぜひやって欲しい。それにはボランティアプロフェッサーがいいと思う。実習つきの講座がよい。ボランティアプロフェッサーを増やすことがレベルアップにも費用対効果にも良いことである。
- ・地方から来る学生の寮について、このコストが高く親が困っている、社員寮はたくさん余っているのでそれを学生寮として活用して勉強しやすい環境をつくってみてはどうか。
- ・地方からくる学生のコストでは、親は授業料と寮費を払うので精一杯。学生はお金がない。奨学金を学生個人が借りられるようにしては。学生はバイトをしていたら勉強する時間がなくなる。奨学金を親が借りるのではなく、学生が借りられるように。

#### 《委員》(意見)

- ・教養教育のあり方が難しい。人格形成、基本的なことのできる学生が必要。ただし、教養という名の専門教育をしてしまわないように。
- ・人格形成のための講師を雇うのにボランティアプロフェッサーを活用するのは、地域の人材養成においても効果が大きい。学生を教えると同時に講師自身もレベルアップする。

#### 《委員》(意見)

- ・今、県大はとてもよい資源を持っていると思う。予備校のデータを見ると偏差値もとても高

い位置にある。それ一つをとっても、非常によい学校であると思う。第4回の懇談会の時にも申し上げたが、そのことをもっと発信すべきではないか。各教授の特技や何ができるのか、といった資料はないのか、と前回聞いたら既につくってある、との回答だったが、見せて欲しい。そういうことがわかれば寄付も増えるのではないか。

- ・3学部7学科ということでそれぞれ個性のある立派な学科なのだろうが、トータルなイメージがない。10年経てもそれが無いのが不幸である。イメージづくりに取り組むこととあわせて自尊心を持っていただきたい。すぐにできることだから、やって欲しい。

#### 《委員》(意見)

- ・インターンシップはやる方がよい。今は3年の段階で採用が決定する。そうしたら1年間に、企業側も学生側も相手を見定めることができる。
- ・今の大学生を誰が教育するのか、が重要な問題。新卒を1年間かけてじっくり教育してそれに将来をかける、というのはこれからの一つの流れかと思う。
- ・県大は学生に何を訴えかけるのか、何をしてくれるのか、をもう一度改めてはっきりと打ち出す必要がある。

#### 《委員》(意見)

- ・先ほどの委員の意見と同じで、県大はランクの高い大学であると聞いている。そのことをもっと知ってもらいたいと思う。ここに大学案内という立派な冊子があるが、これは皆さんにはどのようにしたら手に渡すのか。
- ・大学案内の記述の仕方についてであるが、一級建築士の資格が取りたい生徒もいるだろうが、取得可能な資格名は書いてあるが、何単位取得して、こういったことをクリアすれば資格が取得できる、と具体的に記述して欲しい。

#### 《委員》(意見)

- ・インターンシップについて、私は皆さんと意見を少し異にしている。インターンシップは、就職のための青田刈りとかコネをつけるというものではない。もしすべての大学がそういうことをしたら、県立大は負けると思う。インターンシップは本当の意味のインターンシップであるべきだと思う。

#### 《委員》(意見)

- ・委員のところでされているのは、インターンシップではなくて「職場体験」ではないか。インターンシップというのは、専門的な分野について、大学から派遣されて企業に行きそのまま就職してしまう場合も多い。研究課程の一環のようなもので、理系ではもう何年も前から行われているものである。

#### [事務局]

- ・県大で行われているインターンシップは、夏休中の2週間実施し、終了後は学内で発表会を行い審査して単位を付与している。科目としてきちんと位置づけて実施しており、単に企業実習の一つとしてはしていない。実施も相当の数にのぼる。

#### 《委員》(意見)

- ・私が、岡山大学のインターンシップの仕組みをつくった。米国ほどの本格的なものにはできなかったが、一日を一授業(90分)と考え、だいたい2週間企業に行くと2単位の講座とし



た。また協定書を企業と大学が結び、対価を求めないこと、守秘義務を守ることなどを決めた。インターンシップは企業で本質的な教育を受ける社会勉強のようなもので、理系にとってはゼミのようなものである。

#### 《会長》(司会)

- ・就職は副産物であって、就職目的のインターンシップはどこも行っていないだろう。
- ・これからは大学は、「冬の時代」「淘汰の時代」である。今までは教育と経営が分離していなくてもよかったが、今後は、経営は専門のマネジメントができる人が担い、教育はその分野のプロがしていく、という分離が必要となってくる。
- ・県大は国立大とも私大とも違う。「使命」をもった大学であり、その「使命」をどこに置くのかを議論しておかないと県民の大学とは成り得ない。県民の大学として残ってもらうには、普通の大学とは違うという意識が必要。今日出された意見をよく受け止めていただきたい。

#### 4 前回懇談会での委員要求資料

##### [事務局]

資料により説明。

#### 《委員》(意見)

- ・各県立大学の財務の状況資料が記載されているが、これに私大の状況もつけて欲しい。県大だけだと仲間内、という感じが否めない。

#### 《会長》(司会)

- ・今回は、事務局からメモ的なものをつくってもらって、論点整理を行い、それをうけて報告書の形でまとめさせていただきそれを審議していただくという形にする。